



校長室通信

ぶんせき はさまたかふみ
文責 狭間卓史

「大きな一歩」

9月19日(土)、前日までの雨とは打って変わった好天に恵まれ、体育大会を実施しました。

今回の大会は、開催時期はもちろんのこと、開催時間、競技内容の変更に加えて、参観者の制限や三密の回避、熱中症対策等、「例年どおり」の発想が通用しない状況での取組でした。

企画段階では、生徒の意欲がどこまで高まるのか懸念はありましたが、新しいことに挑もうとする生徒の前向きさと、その背後にある職員の姿に接し、懸念はいつの間にか期待に変わっていました。

各学年の通信にも、この日を迎えるにあたっての生徒の姿が報告されています。練習を重ねるたびに逞しくなる姿。あるいは任された自分の役割の責任を果たそうとする姿。よりよいものを作るために本音でぶつかり合う姿など、その全てが生徒の成長を物語る姿でした。

職員にしても、体育主任の内田を中心に、三年生担任の高宮、生徒会担当の堀田・井島をはじめ、全職員がその時々々の状況をふまえ、柔軟に対応しながら指導にあたってくれました。

前日の夕方、雨で水が浮き上がるグラウンドで全職員が吸水スポンジを手作業で作業する姿、当日の朝、午前5時前から車のライトを頼りに整地する姿を見たとき、「うまくいかないはずがない」という思いにさえなれました。

大会終了後、眩しいくらいの笑顔で誇らしげに記念写真に収まる生徒の姿を、ただただ嬉しく思っています。

これからも、どんな状況であっても、一度きりの中学時代を過ごす子どもらに、かけがえのない思い出を築いて欲しいと願っていますし、そのためにも、出来ることを見つけて挑む前向きさを忘れないでいてほしいと願っています。

南中はさらに飛躍します。

